なお、*Utricularia* の細分化については小宮（J. J. B. 48巻5号、1973）を、種の区分、文献、シノニム等については小宮（日本歯科大学紀要9号、1980； 食虫植物研究会誌 91号、1980）を参照されたい。

〔日本産ミミカキグサ類の学名〕

1.　ホザキノミミカキグサ
Utricularia (sect. Nigrescentes) *caerulea* L.
1－a,　シロバナホザキノミミカキグサ
form. *leucantha* Komiya
2.　ヒメミミカキグサ
Utricularia (sect. Calpidisca) *minutissima* Vahl
2－a,　シロバナヒメミミカキグサ
form. *albiflora* Komiya
3.　ムラサキミミカキグサ
Utricularia (sect. Stomoisia) *uliginosa* Vahl
3－a,　シロバナミミカキグサ
form. *albida* (Makino) Komiya
4.　ミミカキグサ
Utricularia (sect. Stomoisia) *bifida* L.

ヤナギスブタとセトヤナギスブタの比較

浜 島 繁 隆

スブタ属は、葉が茎上につく有茎種と、すべての葉が根生する無茎種に分けられる。有茎種は、わが国でヤナギスブタ *Blyxa japonica*（MIQ.）MAXIM. 一種のみが知られていた。ところが、1980年10月、愛知県瀬戸市上半田川町の山中（標高約370 m）に開けたわずかな水田に、ヤナギスブタに混って *B. alternifolia* (MIQ.) HARTOG の生育を確認し、和名をセトヤナギスブタとした（浜島，1981）。本種は、茎の長さ、葉の長さと幅および種子の大きさなど、すべてがヤナギスブタと比べ大形である。一見したところは生育良好なヤナギスブタを思わせる。しかし、ヤナギスブタも時に栄養状態により大形になることがあるので、外見だけで区別することは不可能である。秋に種子の熟するのを待ってその形態を観察することが大切である。本種は種子の表面にいぼ状突起がみられるのに対し、ヤナギスブタは平滑であることで両種の区別は容易にできる。両種の葉および種子の大きさと形態を比較したのが表1.と図1.である。

<文献>

浜島繁隆．1982．日本新産セトヤナギスブタ（新称）．植 研．57：31－32.

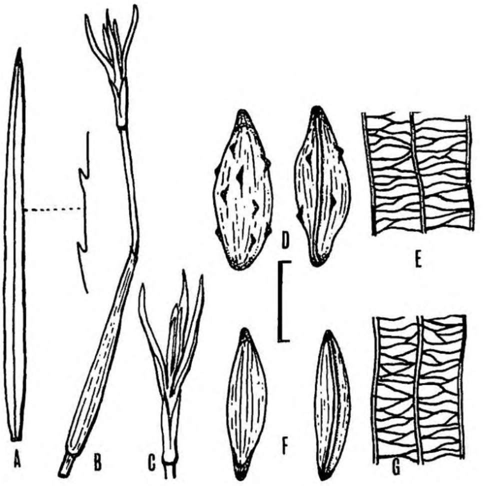

図1.　A―E：セトヤナギスブタ．F―G：ヤナギスブタ．A．葉，約× 0.7．B―C：花．B，約× 1.1．C，約× 1.4．D，F：種子（スケール．1 ㎜）E，G：種皮表面

表1.　セトヤナギスブタとヤナギスブタの比較

	セトヤナギスブタ	ヤナギスブタ
葉（長さ×幅）（㎜）	72.9 ± 0.8 × 3.3 ± 0.2（n = 14）	31.5 ± 0.7 × 2.4 ± 0.3（n = 11）
種子（長径×短径）（㎜）	1.96 ± 0.12 × 0.74 ± 0.08（n = 25）	2.02 ± 0.19 × 0.51 ± 0.04（n = 13）

（平均± SD）